



## シドニーの物価は高いのか？

国際東アジア研究センター主任研究員 坂本 博

### 1. はじめに

当センターは東アジアを主な研究対象地域としているが、研究成果を報告する場所としては必ずしも東アジアにこだわることはない。よって、以前私がレポートしたように（「アジアから世界へー飛行機の乗り比べー」『東アジアへの視点』2010年12月号）、報告する場所は全世界が対象ということになる。今年度もインドネシアのバンドン、イタリアのパレルモで研究成果を報告してきた。2013年12月には、オーストラリアのシドニーで学会報告の機会を得ることができた。オーストラリアといえば、以前ゴールドコーストで報告したことがある。このコラムを書く際に「そういえば」と当時の様子を時々思い出すのだが、なにぶん今回のシドニーに関しては、油断していると必要以上にお金を使う可能性があることが判明した。よって、ここではどういった局面でお金を使ってしまうのか、それに対する対処を数日間の体験から書き出してみようと思う。

### 2. 通貨

旅は日本にいる時から始まっているといってもいいだろう。出張の日程を決め、航空券とホテルを手配し、両替および交通情報をあらかじめ調べておくのが出発前にやっておくべきことである。航空券はタイ国際航空にした。サービスもさることながら（といっても、機内エンターテイメントの日本語チャンネルが非常に少ないのが難点）、帰りのトランジットでバンコクに数時間立ち寄ることができるからである。ホテルは専門サイトから予約を入れたが、シドニーの宿泊代の高さには閉口した。この時点ですでに物価の高さの洗礼を受けているのだが、何とか1泊1万円ちょっとのホテルを探し、予約を入れる。せっかくなので、会場近くではなくシドニー中央駅付近に泊ることにした。となれば、そこに向かう交通の便についても調べる必要があり、電車の時刻表をあらかじめ入手した。

オーストラリアの通貨はオーストラリアドル（豪ドル）である。1米ドルが103円くらいに対し、1豪ドルは93円くらい（12月9日時点の市場レート）である。しかし、通常はこのレートで豪ドルが手に入ることはない。ちなみに、この日に、地元の某銀行で各通貨の現金を手に入れる場合は1米ドルが106円、1豪ドルが103円である<sup>(註1)</sup>。つまり、為替差（手数料的な役割）が米ドルについては3円で豪ドルは10円ということになる。これを見て、日本で豪ドルを用意しないほうがいいのかはとってしまうかもしれない。しかし、実際は現地のほうがもっとひどいレートで交換させられる羽目となる。

シドニーは空港以外に、街中にも両替所がある。空港の両替所のレートが悪いのは定番なので（そういえば、ゴールドコーストに行く際に下りたブリスベン空港の両替所は、レートが悪い上に手数料を相当取られた記憶があった）、街中の両替所を当たる。しかし、表示レートの読み取りが厄介だ。ここでは、1円を出してもらえる豪ドルの額ではなく、1豪ドル=97円といった表示となっている。この数字だと1万円で103豪ドルくらいもらえる計算になるのだが、実際にももらえる額がはっきりしないので、1万円でいくらもらえるのか聞いてみた。すると、なぜか100豪ドルよりも少ない数字をいってくる。理由を聞くと手数料を8~10豪ドルくらい取るということだ。さすがに計算が面倒になってきたので、手数料を取らない店を探した。確かに手数料は取らないようだが、その分元のレートが悪い。101.5と表示されていたので（これだと計算上は98豪ドルくらい）、改めて聞いてみると95といわれた。「あれっ、おかしい」と思いつつも、本当に面倒になってきたので、思わず1万円札を出してしまった。

ここで、空港から街までの豪ドルをどうしたのか、気になった読者もいるだろう。実は、出発前に第三国の通貨を通じて100豪ドルを手にしていたのである。東南アジアのタイやシンガポールなどはレートがいい上に手数料も取らない両替所が多数ある（もちろん、自分の足でいいレートの店を探さなければならない）。そこで現地通貨から豪ドルを手にする方法がある。つまり日本円→現地通貨→豪ドルの流れである。一見非効率に見えるが、レートがいいとこの方法が有効で、100豪ドルを1万円足らずで入手した<sup>(注2)</sup>。

### 3. 交通

シドニーの国際線ターミナルから街までは電車が走っているが、中央駅までは15.9豪ドルだった。高々20分程度の乗車で1,600円だからずいぶん高い。しかし、これはあくまでも空港を利用する人に対する料金である（そういえば、ブリスベン市内からブリスベン空港へ行く電車の料金も高かった）。中央駅から学会の会場方面は片道5豪ドルである。電車の種類にもよるが、乗っている時間は30分余りである。しかし、それでも高い。そこで調べてみると往復割引があるらしい。ただし、この時点でいくらかは分からない。というわけで、シドニーの2日目に往復で会場方面へのチケットを買うことにする。オーストラリアのコインは2豪ドルが小さいが、いくつか持っていると非常にかさばる<sup>(注3)</sup>。そこで2豪ドルコインを5個あらかじめ準備して、往復チケットにトライした。チケットは自動販売機でも買うことができるが、しくじると面倒なので、普通に売り場で買った。売り場のおじさんは「シックス・エイティ」といっていたようだが、おつりは1.2豪ドルだった。8.8、いやチケットには6.8と書かれている。自分は10豪ドル出したのに、おじさんには8豪ドルに見えたのだろう。2豪ドルとはいえ、悔しい思いをした。つまり、片道だと5豪ドルかかるのだが、（当日帰りの）往復だと6.8豪ドルということになる。ずいぶん大きな割引である。これは知っておいていいだろう。

### 4. 食事

シドニーの物価を1番肌で感じる場所はやはり食事だろう。北米や一部の欧州など、1回

の食事に1,000円以上かかるところは非常に多い。日本も1,000円以上するレストランは多々あるが、〇〇家など500円以内で食べられるところも多々あるため、外食でも食費を抑えることは簡単である。シドニーに到着し、チェックインまでの空いた時間に街を歩き、物価を調べてみた。中央駅周辺はバックパッカーも多いのだが、目立つのはアジア系の人たちである。中華はもちろん、韓国、タイ、ベトナムおよび日本料理の店があったが、簡単な料理でも10豪ドル以上はする。なんで本国より高いのかと思いながら店を探す。

次にアルコールである。気候が日本と真逆のシドニーは今がいわゆる夏である。冷たいビールをサクッと飲むには最高だろうなと思うが、アルコールの販売が許可制なので、どこでも売っているわけではない。当然コンビニにはない。しかもコンビニで売られているお菓子やジュースの値段がやたら高い。よって、シドニーでコンビニは用なしである。レストランのほかにバーのような店はたくさんあるので、外で飲む分には問題ない。しかし、値段はそんなに安くはなさそうだ。

話は元に戻り、チェックインまでの空いた時間にお昼がやってきたので、適当に店に入ることにした。店といってもシンガポールの屋台のようにビルの中に店が数件入っている形式だ。そこでビールとワントンスープを注文した。どちらも5豪ドルであるが、ビールは350ml程度である。早速の1杯が結構まずかった。よく見るとアルコールが2.6%と書かれている。次はこれにも注意しないといけないと思った。ちなみにワントンスープは値段相応で、量がやや多く、味は可もなく不可もなくだった。

さて、もうそろそろチェックインだと思いホテルに戻るが、まだ準備ができていないとのことだった。そこでお酒を売っている店はどこか教えてもらう。店は近くのモールの中にあり、隣はスーパーで、周辺にはレストランのほか『SUSHI』と書かれたよく分からないご飯系の料理(もちろん皮肉)を売っている店もあった。酒屋では、ワインを中心にビールも売られている。大きな荷物を持っていたのでチェックインした後に改めて店に向かう。まずはスーパーでソフトドリンクを買う。1ℓのリンゴジュースは1.4豪ドルだった。そして酒屋。ワインは、大容量モノもあったが、滞在が3泊なので、ボトルを2本。1本10豪ドルが1番安かったのでそれにした。ビールはアルコール度を調べ、4.6%のビールを6缶パック(350ml程度)で買った。16豪ドル強だったので、お酒はいずれも高いということが分かる。

そうこうしているうちに、今回の学会では参加費に昼食が含まれていないことが判明した。会場が大学なので、学食という選択肢がある。しかし、どう見ても街中で食べるのとあまり変わらない。1回の食事に10豪ドルを払える学生ってどうなんだろうと思ったりもするが、自分のほうはとりあえず会場を後にし、再び例のスーパーに向かった。スーパーなのでたいいの食料品が手に入るが、食器などを持たないので、手でつまめる方がいい。そこで買ったのが、1kg16豪ドルのローストビーフのような肉を約200g、1kg7豪ドルのハムを約200g(いずれも量り売り)、そして念のために500gの安物のソーセージパックを1つおよびドリンクを買った。合計10豪ドルしなかった。これで現地人レベルまで下げることができたかなあと思った。

しかし、海外まで出てこんなケチなことをするのもなんだなあと思った<sup>(註4)</sup>。そこで夜はオージービーフのステーキを目指した。もちろんレストランによりけりで、10豪ドルから数十豪ドルと値段も様々だったが、いかんせん量が多い。少ないところでも250g、中には500g

の T-bone ステーキなどもあった。昼過ぎに食べたハム・ソーセージであまり空腹ではなかったので、1時間以上店を探したものの（ついでに観光も）、結果ステーキを断念し、軽いものということでベトナムのフォー（麺）の店を目指した。ここでも10豪ドルを超えるフォーの値段に唖然とし、肉がついた焼き飯（12豪ドル）とビール（6豪ドル）を注文した。焼き飯は普通だが、そこについている肉が結構な量だった。サイコロステーキの大きさの肉に玉ねぎを中華風に炒めたものだった。いわゆるステーキではなかったが、何かノルマを達成した感じがして、思わず完食してしまった。ちなみに、横のアジア系のカップルが麺らしきものを食べていたが、洗面器のようなバカでかいお椀だった。なるほど、これなら10豪ドルも納得…もう少し小さな量でいいだろう！！

## 5. まとめ

というわけで、シドニーの物価を経験した範囲で調べてみたが、高いといえば高く、でも工夫次第で安くすることが可能だといえる。滞在費を節約する（ケチる）ことは昔からよくやってきたことだが、いくら頑張っても為替でやられてしまうことも身にしみている。両替の手数料が10%なんてどうしようもない。

シドニーに来たにもかかわらず、見かける人の多くがアジア系だった。彼らは、どちらかといえば小食なのに、レストランではオーストラリア人の体格に合わせた、相応の量が出てくる。アジア系に合わせた少量の料理を安く出せばいいのにとと思う。と考えると、このニーズに当てはまっている料理が『SUSHI』だったりする。でも、どれもうまそうに見えないんだよなあ…

## 番外編

シドニーから4時間かけてオーストラリア大陸を駆け抜け、そこから5時間半後にバンコクに着いた。物価の安いバンコクで旅の疲れを癒し…日曜日でもないのに休んでいる店が多い。聞くとところによると12月5日はFather's Dayだということだ。『父の日』が休日なんだと簡単に思っていたが、ここでの『父』はプミポン国王を指す。ちなみに、連日繰り広げられていた『赤シャツ』と『黄シャツ』の対立もこの日だけはお休みらしい<sup>(注5)</sup>。

## 注

- (注1) 出発前の米ドルが1米ドル=98円近辺だったので、そのころだと1米ドル=101円くらいで現金を入手できたことになる。豪ドルはあまり変動していないので(1豪ドル=103円)、このころは市場レートに対して、購入レートが逆転し、豪ドルへの両替は本文の記述よりかなり損した気分になる。いうまでもなく、このような差は通貨に対する需給関係から来ている。
- (注2) ただし、小さな両替所だと、豪ドルの在庫がなかったりする。現地滞在を前提とせず、若干レートに目をつむるのなら、空港内の両替所で同じことができると思われる。
- (注3) ちなみに、ドルよりもセントのコインが大きく、50豪セントのコインは意味なく大きい。
- (注4) 実は、物価が高いもしくは割高だと分かるとすぐスーパーなどで食べ物や飲み物を買ってすませることが多い。
- (注5) 夜、地元のお店に適当に入って食事をした。コーラを飲んだ瞬間、強い眠気を感じた。ひょっとしてこれが噂のこん睡強盗かと思った。幸いそんなことはなかったが、帰り道で野良犬に絡まれそうになったりで、バンコクを侮ってはいけなかつくづく思った。